

新市長に 初一般質問

2009/1/16

一般質問の通告は大項目・小項目に分けて記入する。大項目欄に「について」として、小項目欄に具体的に書いて行く。ところが市議会ホームページはこの大項目のみ掲載し、島原新聞はそのまま再録する。結果読者はその議員がに賛成か反対かさえ分からない。

そこで僕の場合、大項目のところに象徴的な事柄を具体的に書くように心がけている。以下通告内容の太字（ゴシック体）部分がそれだ。

- ：定額給付金に対する島原市の対応は
- ：何故島原市は返ってお金のかかる行革をするのか？
- ：島原規模の「市」に副市長2名は多すぎるのではないか？
- ：島原半島が一つになるのはいつごろか
- ：国会開会中に久間衆議院議員を消防出初式に招いてよかったのか？

定額給付金問題は、無責任な国策が地方自治体に多大な迷惑をかけていること、もっと地方は国に対して物申すくらいの気概が必要であることを訴える、ほんの枕のつもりだった。

が、島原新聞はこの項目をトップに取り上げた。残念。新聞がどう書くかも今後の課題。

行財政改革問題、9月に引き続き、浦田保育園民間委譲の「見せ掛けの行革」を指摘。教育文化振興事業団や島原城も指定管理者にすることで返って費用がかかっている事実を指摘。

横田新市長は2名が必要で当分二人体制で行くとの答弁。これを受け、「副市長定数1人条例」を提出することとなった。残念。

思ったより新市長は「島原半島は一つ」に熱心ではない感触を得る。残念。

論外。国会議員が国会をサボって、商工会の新年会や出初式をはしごして挨拶回り。あきれ果てた所業である。『喝!』。本会議では事実確認だけで判断は視聴者にゆだねた。

副市長は1人で十分！

僕の一般質問で、横田新市長は、副市長二人制は温存すると明言。前市長が合併の臨時措置として提案した二人制を、恒久的な措置とする都合のいい解釈をした。

二人助役は緩やかな合併の象徴的無駄遣いだった。谷口副市長の任期がちょうど切れるのを機に本来の数に戻すいい機会のはずだった。本来二人でやるべき仕事を三人でやれば、それはきめ細やかでラクチンな行政運営が出来るだろう。報酬額を20%カットして4年間で2200万円削減する一方で4年間で6400万円の副市長経費をかけるという。

清水議員の賛同を得て「副市長1人」条例案を提出した。追加議案の扱いをどうするかという事で、1/19昼休みを30分延長して議会運営委員会が開かれた。市長与党3名で構成される議運は、法的に不備のない僕らの条例案を日程に入れないわけには行かないから直ちに日程に入れ込んだものの、委員会付託を省略するという暴挙に出た。

副市長の定数を1人に戻すと言う重要な提案を、十分審議をしていただこうと、あえて委員会付託が出来る日程で提出したのに、経験の浅い議会運営委員長は、あっさり委員会付託を省略、審議をさせない作戦に出た。僕らの理のある提案は、じっくり時間をかけて話し合えばおのずと容認せざるを得ないからとにかく封じ込めようと、力づくだ。

議運において「これは人事案件だから委員会付託は不要！」の意見も出たわけで、つまり谷口副市長続投が決定していたとすれば、何が何でも二人副市長制は死守しなければならなかったのだろう。

人事案件は議会の同意が必要である。全国の自治体には、全く指導力もやる気もなく「副市長は誰にいたしましょうか？」と議会に伺いを立てる首長も多いという。いわゆる市長と議会の癒着である。島原がそうならないことを願うのみである。